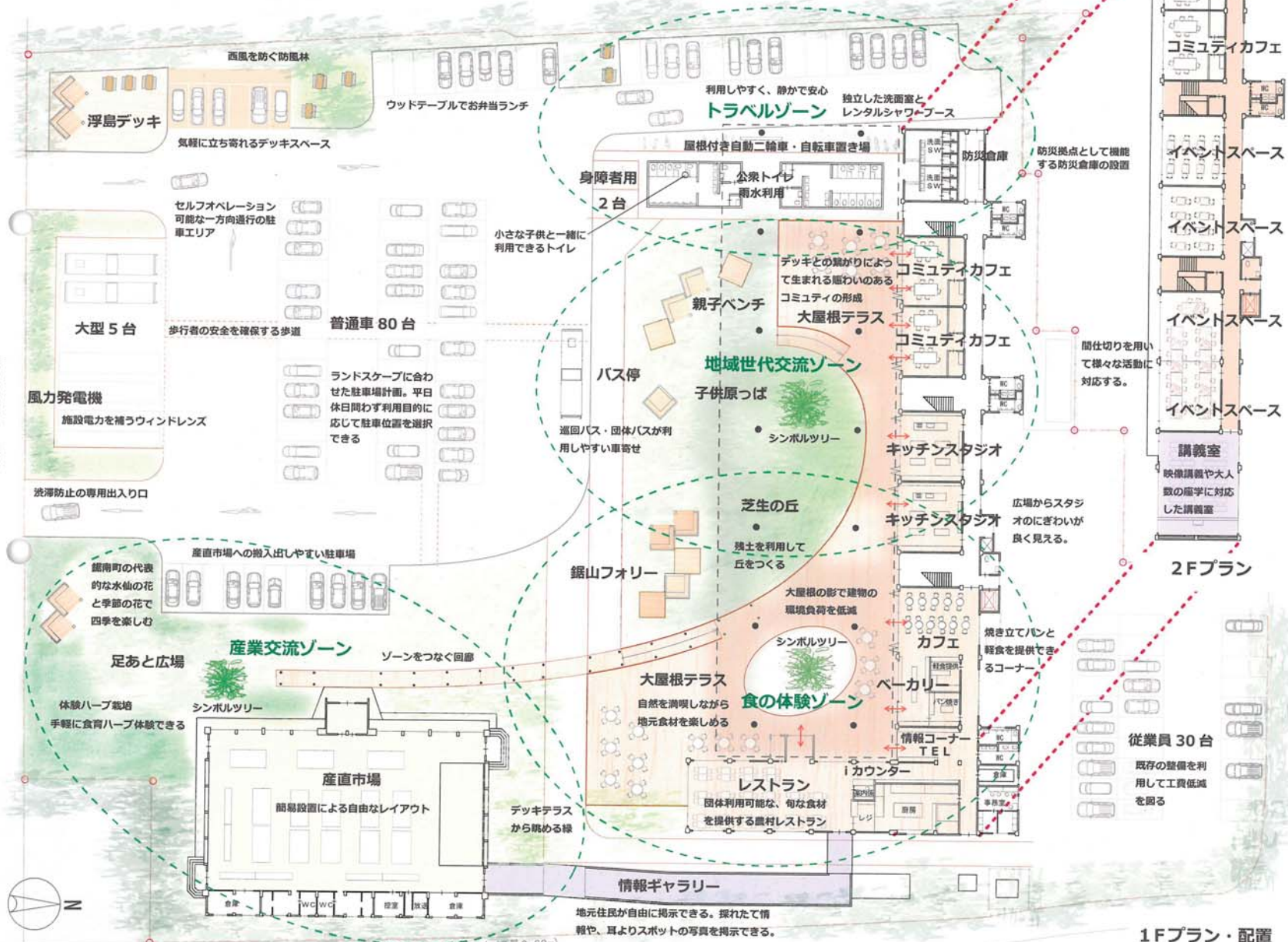
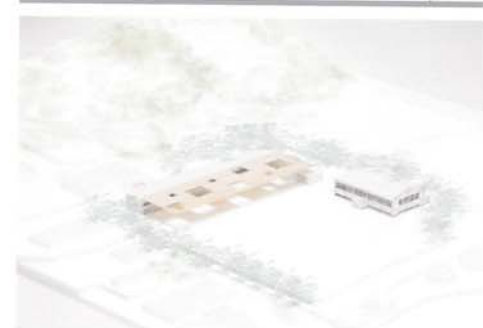


鋸南町都市交流施設

様々な人々が出会い、交流を深める中で鋸南町の良さを立場の異なる目線で再発見し、それを発信する拠点、それが鋸南町都市交流施設です。今「健康」に対する人々の関心が高まる中、「食」を通して世代・地域の異なる人々が集まり、食べて、学んで、話して、育てる。地産地消・身土不二の考えを参考にしながら鋸南町の良さを再発見することで鋸南町の誇りを高める拠点が生まれることを願い計画を提案します。



①ランドマーク性



<人々の出会いを包むシンボリックな大屋根>
鋸南町の穏やかな里山に囲まれた風景の中に、森林の中で佇むかのような木漏れ日を生む大屋根を設けます。大屋根は木で組まれており周辺環境に馴染みつつも地域のランドマークとなります。屋根の下は、子供連れ親子から高齢者まで誰もが集える学びの場への入口であり、都市交流のきっかけを生む場となります。

②ランドスケープ



<鋸南町の特徴を表す景観づくり>
鋸南町のおおらかな里山風景に繋がる「芝生の丘」。鋸山の風景を感じる「親子ベンチ」や「浮島デッキ」。デーデポ伝説を織り込んだ水仙が植えられた「足あと広場」。訪問者に鋸南町の特徴を知ってもらうきっかけを創ります。



足あと広場の周りには鋸南町の代表的な水仙の花をはじめ季節の花を植える。四季の変化を楽しむことができ、ハーブ栽培は食育体験できる食べれる庭。

気軽に立ち寄れる浮島デッキは子供たちとお弁当を食べるスペース。デッキ横に駐車スペースを設けることで、デッキのみの利用の場合は他の車や施設利用者と交差しない計画。



1/500

1Fプラン・配置

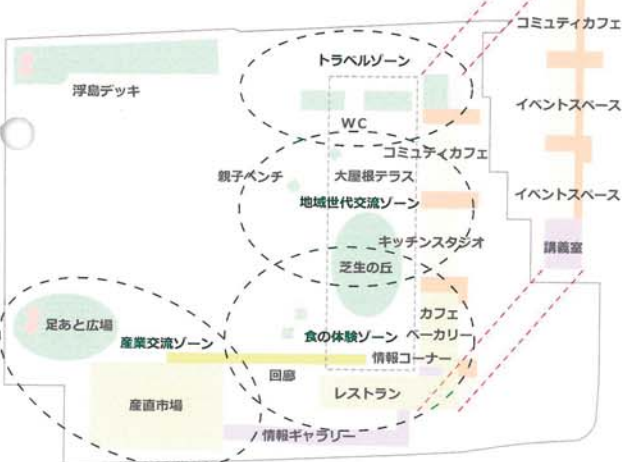
③ サービス提供施設

＜4つのゾーンと6つの部門を明快に分けるゾーニング計画＞

「食の体験ゾーン」を中心に「地域世代交流ゾーン」「トラベルゾーン」「産業交流ゾーン」の4つのゾーンに区分けしています。その中で更に6つの交流部門を明快に配置し、利用者・管理者共に解り易く使いやすい施設計画とします。

＜大屋根テラスは交流促進空間＞

「キッチンスタジオ」「コミュニティカフェ」に直接繋がる大屋根テラスは、外を歩く訪問者から内部のイベント等が見やすいだけでなく「レストラン」「カフェ」とも繋がる交流促進空間です。また回廊を通じて産業交流ゾーンの「産直市場」とも繋がります。



1：地域交流部門

- ・「お国自慢料理披露イベント」スタジオ・イベントスペース
- ・「著名シェフによる地産食材開発イベント」スタジオ・イベントスペース
- ・「料理コンテスト」地元食材を使った地域対抗料理イベントスタジオ・イベントスペース

2：世代交流部門

- ・「地元セミプロ養成塾」地元の料理達人による料理講座スタジオ、イベントスペース、
- ・「親子料理教室」親子で作るわが家の料理教室スタジオ、イベントスペース
- ・「料理の情報交換会」コミュニティカフェ
- ・「高校生レストラン」高校生による地元食材を使った献立開発スタジオ、イベントスペース、東屋

3：産業交流部門

- ・「産直市場」地元食材（野菜・鮮魚）の販売産直所（旧体育館）
- ・「地域物産販売」地元加工品の販売産直所（旧体育館）
- ・「地元食材レストラン」地元食材を使った料理を提供レストラン・ベーカリーショップ・カフェ

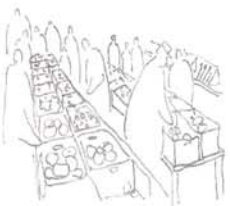
4：情報交流部門

- ・「食育講演会」講師による健康講座講義室
- ・「世界の食事サミット」講師による講座講義室
- ・「新料理研究開発発表会」新調理法の発表会講演室

5：アメニティー部門

- ・公衆便所・公衆シャワー・公衆洗面所
- 親子ベンチ（東屋）・芝生広場・足あと広場・浮島デッキ

6：管理部門



④ 小さな子供連れ対応

＜子供イベント＞

キッチンスタジオの一部は子供も使いやすいサイズのキッチンやテーブルを設置します。また、施設諸室はなるべく子供の動きが認識できて、キッズイベント等が企画しやすい計画とします。親子と地域の人々の交流機会が増える施設づくりを目指します。



＜外部計画＞

敷地全体に「芝生の丘」や「浮島デッキ」「足あと広場」といった小さな広場を点在させ、そこに親子ベンチを配置します。平日・休日に問わずふらりと子供連れで気軽に弁当を食べたり遊びに来れるような場所を計画します。



＜子供トイレ＞

小さな子供と一緒に利用できる子供トイレやベットのブースで子育て支援できる計画とします。

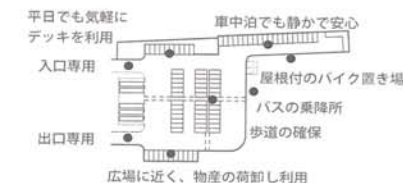
⑤ 交通・情報拠点

＜交通拠点＞

バスツアーイベント、団体講演も視野に入れ、団体客も滞留できる大屋根のある広場を計画します。休日の利用客と平日の利用客各々にとって使いやすい駐車場計画とします。

＜情報拠点＞

リピーター確保できるよう「情報ギャラリー」と「情報コーナー」を設置します。「情報ギャラリー」は地元住民による地元住民のための掲示板で、お役立ち情報を掲示して住民同士の交流を推進します。「情報コーナー」は他の地域から来られた訪問者に対して産直市場の情報やイベント情報等を掲示するコーナーで施設管理者側から情報発信するコーナーです。



⑥ 予算配分・価格低減

＜予算配分＞

既存建物の良さを再評価し、使える部分は極力手を加えずに再利用し、古い良さを際立たせるデザインを心がけます。その上で新しく導入するキッチン設備等インフィル部や水廻りには予算を振り分けず。

＜価格低減＞

自然エネルギー活用の為に設置する太陽光パネルは大屋根の材料としても活用検討します。「親子ベンチ（東屋）」はCLT材等の低コスト材を工夫して計画します。大屋根設置の基礎掘削で発生する残土は「芝生の丘」等のマウンドに再利用し土の移動を最小限に抑えます。コストのかかる設備機器等については、再利用材等々を検討し価格低減に努めます。設計体制上も豊かな経験者豊富なメンバーを集めて効率的で効果的なチームを組み設計コストの低減も図ります。

⑦ 独自提案

＜大屋根テラスと回廊、シンボルツリー＞

「地域・世代交流ゾーン」「産業交流ゾーン」「食の体験ゾーン」にはそれぞれのゾーンを象徴するシンボルツリーがあります。その3つの交流ゾーンは大屋根テラスと回廊で繋がり互いの交流を促進する役割を担います。また大屋根の一部は太陽光発電セルパネルを使って計画します。

＜体験ハーブ園＞

四季を通じて様々なハーブを育て、ハーブの育て方、ハーブを使った料理といった情報交流を促進する題材に活用します。四季を通じて変化をもたらすリピーター確保にも役立つとします。

＜防風を担う公衆トイレ＞

強い西風から大屋根テラスを守る為に公衆トイレを西側に配置し防風の役割を担います。

＜種カスロープを無くしたユニバーサル計画＞

施設中央部に「芝生の丘」マウンドを計画しスロープが無くとも自由に行き来し易い計画とします。

＜親子ベンチ＞

敷地内に屋根付きベンチを分散配置します。親子で気軽に楽しめる場所となります。この親子ベンチブースを組み合わせて小さな貸座台「露山フォロニー」とすることも検討します。

＜ウィンドレンズ（風力発電機）＞

施設電力の一部を補う風力発電機の設置を検討します。